

多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン
取組の概要と推進委員会からのコメント

| | |
|------|---|
| 整理番号 | 5 |
|------|---|

| | |
|------------------|--|
| 申請担当大学 (連携大学) | 金沢大学(計6大学) (信州大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学、石川県立看護大学) |
| プログラム名 | 超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成 |
| 事業推進責任者 | 矢野 聖二(金沢大学がん進展制御研究所腫瘍内科学教授) |

取組の概要

本事業は、県の枠を超えた北信地域での戦略的がん医療人育成システム構築を目指す。6大学の強みを生かした最先端がんゲノム医療、小児・AYA世代・希少がんの集学的治療、ライフステージに応じたケアを大学の枠を超えて学習できる、共通科目や単位互換を導入した相互補完的教育コース(本科10、インテンスブ9)を新設する。2期がんプロで構築したTV会議システムを発展させた北信オンコロジーセミナー等を定期開催し、遠隔教育により多施設・多職種連携を推進する。さらに免疫チェックポイント阻害薬使用例など特色ある症例の北信地域がんデータベースを構築し、学会・論文発表に使用して専攻生や教員の意欲を高めると共に、地域がん対策に活用し成果を社会に還元する。これらの活動により、患者中心のチーム医療を行う超少子高齢化地域で活躍できる先進的がん医療人を輩出し、将来の日本の超少子高齢化社会におけるがん医療人材育成モデルを確立する。

推進委員会からのコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等

- 北信地域は超少子高齢化地域であり、本地域でのがん医療の進め方は、今後、他地域や都市圏でのがん医療のモデルとして評価できる。
- 各大学の役割分担に具体性があり、かつ連携のメリットが明示されている点が評価できる。
- 相互補完的教育プログラムの追加と導入は、本事業活性化の点で評価できる。
- 地区医師会や患者会を含めた運営協議会を設置し、意思決定や運営を行うことは先進的な取組であり評価できる。
- 取組継続に関して、各大学の学長のガバナンスにおいて予算確保の継続は評価するが、中長期的戦略も必要であり、公的資金以外にも資金確保の工夫を期待したい。
- 事業計画の進捗管理・改善や北信地域がんデータベースの構築に関する方法論、実施体制等が提示されていない。
- 少子高齢化と小児・AYA世代のがん医療についてどのような問題点があり、どのように解決していくのか明確となっていない。
- 外部評価は隔年施行予定とあるが、アドバイスの、監査的要素も入れて毎年関与されるシステムの構築が望ましい。
- 北信地域の特徴は記してあるが、遠隔教育システムやデータベースを新たに構築する以外、その特徴に対して、具体的な教育・研究活動が明瞭に示されていない。
- 各大学の得意な領域を活用する趣旨は評価できるが、他大学の院生がどのような形でその恩恵に与れるのか具体策が不明確である。
- 人材養成モデルの情報発信の方法が不明確である。単なる教員、院生の研究成果の発表にとどまらないよう考慮する必要がある。